READING STORY

ゆたよい 発足ストーリー

大分の酒を、もう一度。

ゆたよい

10年前のはじまり

10th ANNIVERSARY

特定非営利活動法人　大分県地酒・焼酎文化創造会議

（愛称：ゆたよい）

SECTION

01 居酒屋のカウンターで感じた、小さな違和感

10年ほど前のこと。
大分市内のとある居酒屋のカウンターで、
一人の男がふと違和感を覚えた。



県議会議員（当時）の藤田正道。
地元の集まりや会食で、大分の街を歩くたびに何度も居酒屋の暖簾をくぐってきた。
そのたびに目にする光景があった。

> “みんな、黒霧島や白波を飲んでいる。
> 大分にも、負けないくらい美味しい焼酎が
> たくさんあるのに――

もちろん、いいちこや二階堂といった大分の看板銘柄は、県内外で見かける。
だが、それ以外にも、丹精込めて酒を仕込んでいる蔵がいくつもある。
知る人ぞ知る、地元だからこそ誇れる味。それなのに、誰も飲んでいない。

「それは、あまりに寂しいことじゃないか。」

藤田の胸に、小さな、しかし消えない灯がともった。

SECTION

02 焼酎からはじまった、応援の輪

「大分の焼酎を、もっと大分の人に知ってもらいたい。」

その思いから、ひとつの団体が産声を上げた。



地道な活動を続けるうちに、県内の酒造組合との付き合いが自然と深まっていく。蔵元を訪ね、酒を酌み交わし、話を聞くたびに、藤田たちは気づかされた。

> 焼酎だけじゃない。日本酒も、クラフトビールも、リキュールも、ワインだって。大分には、こんなにたくさんの『地の酒』があったのか。

気がつけば、活動の輪は焼酎の枠を越えていた。県産のあらゆる酒を、まるごと応援する。それが、この団体の新しい役割になった。

こうして、大分県地酒・焼酎文化創造会議――通称「ゆたよい」は、ゆっくりと、しかし確かに歩みを進めてきた。







SECTION

03 10年目の、いま



発足から10年。ゆたよいは、大分県産の酒を集めて各地のレセプションやイベントに届ける「出張出前展示館」を主軸に、蔵巡りのバスツアーやライドシェアなど、酒と人とをつなぐ活動を積み重ねてきた。

会員として名を連ねる人、イベントで一杯を酌み交わした人、蔵元として協力してくれた人。10年という歳月の中で、この輪に関わった人の数は、延べ数百名にのぼる。

10年前、居酒屋のカウンターでともった小さな灯は、いまも消えていない。それどころか、大分の酒を愛する人たちの手によって、少しずつ、確かに大きくなっている。



TIMELINE

10年の、あゆみ

2016	2018	2020	2023	2026
発足	酒蔵との交流開始	イベント開催	出前展示館開始	10周年







出張出前展示館を主軸に、蔵巡りのバスツアーやライドシェアなど、
酒と人とをつなぐ活動を積み重ねてきた。

OUR WISH

“

大分の居酒屋で、
大分の酒が
当たり前に飲まれる。

そんな景色を、
もう一度。

それが、ゆたよいがこの10年間、
ずっと変わらずに描き続けてきた願いである。



特定非営利活動法人　大分県地酒・焼酎文化創造会議
愛称：ゆたよい